

敵討嫁威谷傳

九

遠 13
1299
9



敵討傳成書傳

卷之九

目録

一 山田藤吉の二首一書

并 前田古伝と友成才の事

并 前田古伝と友成才の事

并 山田藤吉の二首一書



13
明
編
卷

敵討家風古傳

卷之九

目録

一 山田藤左衛門三郎之事

并 前田古伝及及取才之事

一 前田古伝及及智徳之事

并 出陣足利中屋をたたく事



越前家威谷傳 卷之九

山田五郎右衛門正直之事
并是田吉伝及是田吉の事



杉と萩田有左衛門ハ越前家少佐ノ生後也
左衛門と善一ノ刀を奪ひし事山田五郎
右衛門ト申すも是事奪取ト申す也
是事一ト云ふものなりハけし事ト云ふ

かみよつとせほやくまじとぬりく
けいこ池もあきだまのこあけあよりく
古きよりとこおとひきくかくまひ
まゝくまひく幸ひぬら大聖寺のあ中
候扱うまへ挑持書きまゝへ一 家持紙
録く一学とゆきまあ年暮るあ討ま
つとくふくふあまといはくどはまま
のふまけの候書紙とよくはとああり

山田家書つはかのまじりて自ふまあや大聖
換及若といはくはむい一まあま
がりと丁寧とあまひ候ひなまらあ
町くの子代と足一甲務お城おま
内を乞お婦一あまあまあま
しりとまゝりる子代中あまはれま
と及まゝあてまとはるあま
しりまゝあま

知家入ちし給しと書候と勅書ハ詔書が
書とのまらひのこもる事らまはさるめら
らんとおらひお建討面しらるは彼の
らの中らるわまは江戶候ま出候ま
常徳の所へ属屋年八の氏幼なま
かしえまそ口元へけ度所西え山拂
の候し身常徳の子をせりゆ年人妻候
ゆきゆき西より子より山高田(新田

有妻の様もく日根形様山屋へツ誠
のより私書ハ先子有まの御りかき
御子婦あり之の御氣をうらむり難
仕はさ良まま書つ様うとツ浪人を控はさ
私を以かくせんゆきまその人五人も
候しツ様御つらそハま色もツヤ
いさし一ツ只今いさし人の口まも
後一十年よりおらり美石の心懸その

言はれし事柄の様中しりし事か列(り)の
山田(やまだ)の事柄(こと)の(り)の(り)の(り)の(り)の
いけきとひ新(あらた)ま(ら)し(る)事柄(こと)の(り)の(り)の(り)の
む(む)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
よ(よ)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
高(たか)付(つけ)れ(る)事柄(こと)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
一(ひと)つ(つ)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
を(を)事(こと)柄(柄)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の

な(な)し(し)と(と)中(ちゆう)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
し(し)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
お(お)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
友(とも)美(み)物(もの)を(を)事(こと)柄(柄)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
大(だい)聖(せい)寺(じ)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
と(と)中(ちゆう)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
一(ひと)積(せき)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の
あ(あ)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の(り)の

玄儼の龍平よりある事なくと新
りもこの字より龍平の天もよる地と
しるこひるはとて例の太守の所
道中の人のとて後日見取の事
教方けしむ人の中へ置候かひよ
下り見取のありしうきつむ
と代りしは家中より知る人
おろきと龍平よりしひんかよ

このころころとありて後事ありとあらむ
有る事あり新といふ事ありと龍平
はまたありとありかくとありて事ハ
始終の事とて例をいふ事ありと
とてしる事ありとて例をいふ事あり
兄弟の子供ありとて例をいふ事あり
とてしる事ありとて例をいふ事あり
のりし事ありとて例をいふ事あり

七重の神子しりおきつなしりれ父
の御供子天を戴くはいつれしく存念
とまもる今しりおきつなしりれ
御を兄弟のきくよりし相かきしり
るはきくくのせし御平なふ御供
の御供女をきくよりしり人かきり
食く御父の御供をきく御供よりしり
父の御供をきく御供よりしり

いしりすしりしりおきつなしりれ
御供よりしり父をきくよりしり
よりしりしりしりしりしりしりしり
の御供よりしり父をきくよりしり
よりしりしりしりしりしりしりしり
けしりしりしりしりしりしりしり
御供よりしりしりしりしりしりしり
御供よりしりしりしりしりしりしり
御供よりしりしりしりしりしりしり

おれは向侍で候いさせしにももてとてく
 心懸く候ひりやうまは此の大幣の擗
 まるんを証と討まあまの事
 をさしし石中一人勝手ありし
 ち候り候るの事うまの心候は
 うげさんとし候されまはらう
 が一候と候しうづの事
 候中の方候と候まの事
 系ひもふたふとへ
 西宗由方の刃以入申の事
 候ん候り候と候ま
 はみ候り候と候ま
 とま候り候と候ま
 候り候と候ま
 候り候と候ま
 て中々の事候り候ま
 候の事候り候ま

候中の方候と候まの事
 候り候と候ま
 候り候と候ま

候の事候り候ま
 候り候と候ま
 候り候と候ま

ちまきんるーしーとねーしーるえま強欲の
 有きるつははひとささくまりとすしとや
 大令もんとおらひの物者るし持の西字
 ち殿はたしと色いしとさのしと
 西字とあひのさるさくしと目と
 至くとつふ竹屋におもふ持とさ
 してひて右し中しととと古伝を友しと
 比るなりしと悦むるべしとのほかさ

よろろ竹屋をさつとささのしと持
 ぶやう仕しとさささささ

前田古伝を友智信の事

并喜藏兄弟事あやとささ

相とさ前古伝を友智信の事
 刀入相と解るるをさささささ
 子所の玉宗披見仕しとさ

らやの保坂より入布意とまきせんや
斗ひしき色しとちよ天の舞舞らるるや
ひきたる刀うきハらくきまもかくし
おへき正隆歌かろりきん歌古
多福おのきうほまをかのきうさくほり
の及理行屋よりきんとりまは星雲つと
うんで吹雪ある正則行勝の銀さしと
出しお中の節しと今まらりまがひも

うき月夜うり海雲と刀の出る山登り
をしと一学ふるりとよりきんは
歌射の支度たつこのち月さし
くましとより歌ハ正隆のひかよ
よんをゆりと清音があわく討たし
あまきもよ歌あり歌はまとまをそ河
を流るる水とつひの歌さしほおまし
使者をくらきしと保坂の如龍やうと

四公其日ぬは三流十出と古修を及所及
一もろあらしふハ用さの心高とあして
さるくはりてる一投敵とさくちあり
一学かく二名ハ出り事うり色ハ月ハ
玄冥子全振一ハ此のらるる至古修を及
出るを流るへあたりありひしけふ
くすまことあしきりれハ挿子の江人
ししことあしきりれハ挿子の江人
ししことあしきりれハ挿子の江人

一学かたらさうう一偏さけまはる大
幣形まきり流とけして引たり係極と
いりく何種りりくく流とや成序も
のあま理り盡の振るるともをさるる
向井流年ハあらハ流流ハ日根形原人
新田をまきり先年ハ成流右道とるを同さ
りてけ地ハ新さ成威名もあつて成威
と善一谷ハお一利玉家のしとるを

奪ひ取らるる器よりくぬのぬり観念
せしむる一学相の者もぬ下と細き
つらふと古きものいふ根有りて付終り
男子も即ちいふべきは教を折ら格を絶せ
て此の常は格をなすといふ一尾節の
振也せうきぐりハ是(おせと)大勢を自
らしめしハ報手可しくと多し教付の
格有りハ已うそなふを及んや絶せしむ

口と奪ひ一学麻の罪あり世まがらと
川後と是(こ)儀の刑罰はうのしとあり
おのゝ絶せしむる一古きを折ら人の癖
教を折ら大罪人と評しりそ是(く)格せよ
と川と云儀へ後とつとありりまより
古修り及使者を大層寺へせしむる
古修り人(こ)多し甲してりりハ以(け)り
保坂一学を今日(けふ)の目(め)にあり

足持二年人あつて人あつて用り古伝き度ふ
松使として松松兵士の實地を司る物中
行しき事誠是なるハ古事年少は年子
源へ変出させ流年徳たけふくからん
手くまひひいて扱きう相違有ハ此人の
方へ種多様へ引接く細かく務めのせ
事といひし事なりとさるるハカカニむい
はさて「聖域の器」としていしめし
獄屋

へ入る一五教村のゆゑは後々之小と下し
かうくまひひいて扱きう相違有ハ此人の
之あり四方ハ四方の足持やくひの非を
是は是ハ是は是なるも西の方ハ是
して「松」と解したる事なり目行と
欠一福多む金をゆけきり「東」の力
春の將見古事布止る中流年十
兵部古事戊午九月甲辰右へ多らむ

吾を市勢とてけりや
とん知りけりん父の欲
これとをまの勢とて
しぐへんしと欲けん
いそひりけりしと
ととがとめあそく
多しとい店しと
是くり色ハ有る
けりん父の欲
とてけりや
とん知りけりん父の欲
これとをまの勢とて
しぐへんしと欲けん
いそひりけりしと
ととがとめあそく
多しとい店しと
是くり色ハ有る

小治部飛らんく
腕を打たるる
と吾を市勢とて
ま〜割けり
けりん父の欲
これとをまの勢とて
しぐへんしと欲けん
いそひりけりしと
ととがとめあそく
多しとい店しと
是くり色ハ有る

汲くは移移して三節のあはれもみなく
キつきし令は功を右のひやんと早は
大守守し一はまに母運し討ひ一足す是事
智とあまの石抱へしと一はた守能し
こくふをしと治あられと是事
もあはれ子あはれは是事
は移移し四つはさうく女子はあはれ
何しと移移しは是事
何しと移移しは是事

是事希は是事
拙物をりし色小は希は新氏百名
是事希は是事
一は希は是事
是事希は是事
是事希は是事
是事希は是事
是事希は是事
是事希は是事
是事希は是事

源氏物語公傳 卷之九終

Handwritten text in a cursive script, likely a name or title, possibly "John ...".

Handwritten text in a cursive script, possibly a date or location, possibly "London ...".

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, possibly "The ...".

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, possibly "The ...".

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, possibly "The ...".

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, possibly "The ...".

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, possibly "The ...".

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, possibly "The ...".

